

お祝いと贈り物のマナー

人生の節目を喜ぶお祝いや日ごろの感謝を伝えるお礼、お見舞いなど、贈り物をするシーンは一生続きます。相手に気持ちを伝えるためにおさえておきたいマナーを紹介します。

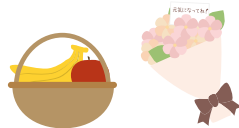
POINT

贈り物はなるべく手渡しで。
宅配の場合は送り状をつけましょう。

手渡しで贈るときは感謝や祝福の言葉を添えて渡しましょう。宅配の場合は送り状として、カードやはがきなどを別送で贈り物より早く届けるか、贈り物と同梱して送るようにします。内容は、季節の挨拶や感謝の気持ちと共に、品物の内容や贈った理由を書きましょう。

お見舞い

お花の場合、花束やフラワーアレンジメント、プリザーブドフラワーを贈ります。鉢植えは入院が長引くことを連想させるので避けましょう。スリッパやパジャマも同じように長引くイメージを与えるため、あまりよろしくありません。食事制限などがない方へのお見舞いは付き添いの方も食べられるよう大人数用のお菓子や果物なども喜ばれます。また、目上の方に現金は失礼にあたるので注意しましょう。



快気祝い

お見舞いのお返しに用意する快気祝いは、退院後1週間～2週間以内に贈ります。お菓子や調味料など食べきってなくなるものや、石けんなど使いきれもの、相手が喜んでくれるものを選びましょう。香典返しとして使われることが多い日本茶は避けましょう。



新築・引っ越し祝い

新生活のスタートには、キッチン用品やインテリア雑貨、スリッパやタオルなどの日用品が喜ばれます。火を連想させる赤いものや、ストーブ・コンロ・ライターなどは避けましょう。親しい間柄なら、あらかじめリクエストを聞いておくのもおすすめです。



数の豆知識

花やお菓子、食器など複数のものを贈る時は数に気をつけましょう。慶事のときは奇数、弔辞のときは偶数の品数で贈ります。ただし、偶数でも「八」は末広がりという意味があるので縁起が良いとされています。「四」は「死」を、「九」は「苦」を連想させるので避けましょう。

